

島の未来を、耕そう。

「石垣牛生産が盛んなこの島では、飼料用の草地在約1900haあります。しかし時間と費用の問題で、その多くが10年以上も更新されていません。」
そう語るのは、石垣島で酪農を営む伊盛牧場の伊盛社長。更新されない草地は土が固くなり、牧草の生産性が下がるため、飼育頭数が伸ばしづらくなるという悪循環に陥っている。
さらに更新されない土壌は雨を吸収しないため隣接畑の赤土が流出し、海の生態系への悪影響もあるという。
「行政とも組んで試行錯誤した結果辿り着いたのが、マルチリッパを装着したブルドーザーで根切りをする簡易更新法です。それは時間と費用を抑えながら牧草の収量を上げ、土壌の水の浸透性も高まる、この島にぴったりの方法だった。」
「更新が進めば、牛の増頭だって可能になります。島の未来を次世代に託していくためにも、この技術を定用化したいです。」
エメラルドグリーンの海に囲まれた南の離島で今、新たな可能性が育っている。

農林水産業みらい基金は、助成金を通じて、
農業生産法人 伊盛牧場の草地再生プロジェクトをサポートしています。

ひるがね！
みらいの
農林水

農業生産法人
有限会社 伊盛牧場
(沖縄県石垣市)



一般社団法人
農林水産業みらい基金

未来は、いつだって、現場から生まれる。私たち農林水産業みらい基金は、JA(農業協同組合)・JF(漁業協同組合)・JForest(森林組合)グループの一員である農林中央金庫によって設立されました。

詳しくは [農林水産業みらい基金](http://www.miraikikin.org/) 検索
<http://www.miraikikin.org/>

